

明治四十三年 元二千五百七十年
 本紙 一枚金二錢 一月前金卅五
 定價 金貳圓 壹稅一ヶ月月三錢
 月曜日及大祭日の號日は休刊(日刊)
 廣告 五號活字十七字一行情金
 料金 五十錢 十號活字一行情金七十五錢
 發行所 東京 高木久馬 大
 印刷所 東京 松久 一郎
 京都 堀内木下 門番(電話六六二)
 發行所 東城新報社

シ脚巨頭頤と云つて、長一丈二三尺位 年としから千三百二十四年頃は亞弗利加の
ものがある、油は精製して精巧な器 ザンシバルが名高い産地で十七世紀頃

前國時サダ
 用即ち懐中時計、杜時計、天文臺の時計等に用ゆる油として珍重されてゐる。
 (三) 抹香線の龍涎香。此類は特有のものに腺油の外に尙ほ貴重な龍涎香と云ふものがある。英國でアムバーグ

草に多、和蘭人は世界所々の各地に買入して賣出、大船に積んでゐた。併し十八世紀頃迄は何から出来るもの、やらず不明であつて、只油の結晶と云ふ中の毒である位に思つてゐたが、今日日

病氣衰へ、禰子將違に世逝して寺内親相之に更り山縣前親相は新に親統監と爲りて、親任せられ永く沈睡せし統監政治は茲に面目を一新し世上の景氣は漸に活氣を帯びんとす、されば本社は兩統監更迭を紀念する爲め左の通り一大紀念號を發刊せ

◆紀念號發行日 來る 六月廿五日
◆記事の内容 韓半島に関する各名士の談話其他政治、經濟、
 情、風俗、美文、短篇等も、趣味と實益に富む記事を網羅す
◆頁數 發行部數 約數十頁、發行部數も平素に數倍

廣く江湖に配附せんとす
右の次第なれば當日の廣告は普通廣告に比し數倍の價值あるを信
ふ
六月二十三日を限りとす
六月
京 城 新 報 社

向來来るもの、向
 此の珍奇な物は抹香鯨から獲られ、龍涎香は抹香鯨の胸中に偶々見出さるゝ。方から多く取れて居る。
 抹香は水面に油の浮んだ中から桃色とし、
 此の海綿見た様なものを拾ふ事がある。
 龍涎香は二三龍涎香の所在は通常抹香鯨の
 此の珍奇な物は抹香鯨から獲られ、龍涎香は抹香鯨の胸中に偶々見出さるゝ。方から多く取れて居る。
 抹香は水面に油の浮んだ中から桃色とし、
 此の海綿見た様なものを拾ふ事がある。
 龍涎香は二三龍涎香の所在は通常抹香鯨の
 此の珍奇な物は抹香鯨から獲られ、龍涎香は抹香鯨の胸中に偶々見出さるゝ。方から多く取れて居る。
 抹香は水面に油の浮んだ中から桃色とし、
 此の海綿見た様なものを拾ふ事がある。
 龍涎香は二三龍涎香の所在は通常抹香鯨の

十數倍、金の價值二倍に當り、昔から商品としてアラビヤ人であるアフリカにて採られて洋から南亞細亞海岸には多量についで、亞弗利加のモロッコ、地となり、十分に乾上るに蜂蜜

校券 現物賣買 迅速確實 徹底

吉やね、お前がこんなに行方にくれては、
から、妻は、今死んでも別に心残りはな
いが、只た一つお前に頼んで置きたい
ことがある。それは、お前の親類に、

イヤ、今度は到底妾は六ツかしいと思ふ、それに就ては前に頼んで置くの

井上 演説
伯保様、聞いては居るぢやらうが、
村へ這入た無賴者、と二百兩の金を持て

左まで財
運落をなされた。相手の男がよう不
兎に角で難儀をして居るぢやらうと只た一

五の年に
 が附きま
 によつて
 死んだ時
 何所に何
 うして居
 るか分
 ないが、
 万一前に
 電信があ
 つたら
 だと思ふ
 が、相殿
 相手にな
 つてやつ
 たら、モ
 ク年輪も
 老てゐや
 うから以
 前のやう
 なとはわ
 るまいか
 ら、傳吉
 頼む

「ハイ、れ母さん、ようございま
す。もう充分のためには一人の伯母さん、何に
も出づ、た話し相手になるぞ。」

地はない
移いでゐ
る世間
田舎に家
を建てた
吉一生懸命に一人で働らくのは、

井上の家を十分の一にでもして、といふせん



最上醬油

景福宮
 瓦斯
 柯克
 斯
 下
 酒井組出張
 坂
 坂
 坂

金水舎製

例年の通り純良なる「ラニ子」をか
製造販賣候間多少に不拘御愛飲と
漢城製藥所
渡邊之
京成大和町二

御料理 和樂園
高田家
席 貸
△米倉町(電九三七番)
料理は萬事にてがらに
内は至閑静にして別世
土產をばし見物に京

會には精々便利に御用命に應

この人は必ず飲め
本品は滋養劑として東洋第一
せらるゝ朝鮮人參を以て精製す

造仕傳授小瓶一樽五圓二角強弱
枚對し利益益小瓶一倍留人の三
に送費共銀で御分與丸尾和
山岩田町二番地新發明人

る物にて、尊皇唯一の武士道
本品は殊に夏季の強壯劑とし
適用の有効なるを以て何卒
試用の上御好評を仰ぐ

●時坂商店は京・釜山、

平壤、開城、龍山、鎮南浦、
 各地有名藥店兼貨店に於て
 にて御買求を乞ふ
 京城本町二丁目（電話一九
 井口 大 藥
 京城大販賣店
 亀屋 （本支）

電話九三番
發電器 (タ)

間の秘事

戀の枝と人景園にね忍びの浴衣姿にヒールを揃て引き酔ふてはた豊の露枝簾垂を越して吹き入るし涼風に醉顔を弄らせて京龍合併枝の大市長としての

抱負を虹の如く吐くのならとは弾が無くつて結構なり山と川とに狹まつた秘密と云ふのは此の事さ

6

斷る迄も御座るまいが仲には知らな
い方も御座らうから冗な機だが書く
ので御座る、寶六庵と申しても尼寺
では御座らぬ新町裏東四軒町の料理
屋で御座る、寶六庵なる名稱の緣起
をたづねると人皇百二十一代の御宇
に於て京城朝翠樓の仲居にホウロク

二十三

と醜名を呼ばるゝ女あり何うして左様仇名を呼ばれたるか少々憚る所あればと興りこして夫れが一念發起してホウロクの醜名を竇六とモヂつて前記の所に席を結び色慾見濟度に從事する如になりたるは一昨年中の事にて期形式の當日には時の副統啓

小粒であ

荒助大人大官連に圍繞せられ親臨せられたるさへあるに自ら筆を揮つて賣六庫の扁額をものして賜はりたる由緒正しき虎なれば僧仰臥の輩引も切らず繁昌一方ならずとや、住職……ぢやない處主れかつや、は尾の置市は十四日町の平民戸主

がした

次郎の姉にして本姓は荒谷と云ひ、
婿を預る仲僧……ぢやない番頭の
中幸三郎は京都生れ今年三十にな
のが、御翠樓以来の俗縁の御亭で
つさんよりは九歳の年下、女振り
年下の亭主を持つて試ないから
キリとて斷言も致し兼ねるが大層
愛、ものなり、ツツ聞いて見る

ける目と

人間の淺聞しは少々妬けるを得
い、夫れは先づ夫れとしてわか
ん平民のね客はキツイ嫌ひだ
ずもあるが實は左様云ふ譯では
のです振られた平民の惡口なの
決して氣に掛けない所が豪い、
なものは若い男。

本署に引

小碓潟と土州山
 結むす

△ヒリ、と辛い小粒岡志
 碓潟三郎の本番附は前頭頭であり
 生れは大坂西成郡で當年三十二歳身
 五尺四寸、體量二十四貫、力士としてけ
 粒の方である、彼れは元京都力士で

一名あり

相子金文字入
大爐強諸貢
永樂町二
赤門

ことも出来たらと思ふ。
 其の後余は彼に先立ちて中學校へ入
 つたから毎日歸を合はす事はなく成つ
 たら、小學校時代彼と同級生にて懇意
 の人々は余の外に法學士西野元一（大蔵
 省書記官、法學士、月刊雑誌（生友）發行、横
 濱支店、支店、東京大學博士鈴木重雄、長谷大

米國選合通信主任記者山崎梅蔵なる
 少佐小室靜、新嘉坡水井風
 助教授二砲兵少佐小室靜、新嘉坡水井風
 助教授二砲兵少佐小室靜、新嘉坡水井風

は、二十七歳にして水戸より第一期の代藩士に擧げられ大坂毎日新聞の社長を、その外一人の弟は陸軍に奉職して居ることを嫌つたやうに聞いて居るが、

◎時事俳評 千春

△有吉長官の多辯
雷の関子に乘れば落ちるべし

△御用紙の不謹慎
辨當の長もちならぬ覺さかな

△京體合併の發表

我々も谷公幼名が相撲に成つたと思

花嫁の嬉しいうづるや 初嫁帳
△大相撲の前是氣
音高き椿太鼓や五月晴れ
△女教員の有夫姦
だらしなき引かけ帯や派手浴衣
いた時は武門の名を傷つけるとか何ぞ
か反對をしたのみならず、最初の喧嘩

西山と稱して西の海鏡山一行のふんし擡ぎにて郷里に來た時には、友人は彼の體格が他の小相撲よりもやせヒョロ／＼して居るを見て、驚きとも暮の内へ入る望はないから斷然相撲はやめろと忠告した事がある（それは

▲**喜座** 東京初下り三遊亭金馬一
は既報の如く愈々二十二日を以て初
を出したるが其の番組は左の如し
遊語亭三遊亭金一 ゆび歌 (同
遊齋 常盤津浮世節 岸の家小つつ
落語曲曲いり) (三遊亭市馬) 登落
物語 (同金勝) 落語亭 (同金登落
落語すて) 同花園遊内外曲藝
らく (九井龜次郎) 尺八曲 (一)

何ハヤク東原宿(八幡總出) 三連
 龍山座 三日目廿二日替り狂言
 〔福隨院長兵衛〕にして役割左の如し
 白藤金五郎、櫻川五郎、藏、之助
 院院長兵衛(喜江流) 五郎殿の母
 薩長唐大棟半(三吾藏) 長兵衛の女
 (鶴三郎) 水野十郎左衛門 小六(金
 勘太兵衛) 寺西間茶茶(祭尾九郎
 助) 間兵衛(羅尾茶茶(祭尾九郎

7

●三昧泉のすけ

●尺八指南（東京翠古流）
御希望の方ハ至急申込ア
拾名ヲ限り募集ス

●天安政府倉庫新築工事
右六月廿八日入札ニ附ス（建築）

●七川八日入札ニ附ス（建築）

●七川八日入札ニ附ス（建築）

●三味線のはり
ねはどこぢよいて
あろうや
はりがよくて
ねなんの安いは
京城本町五丁目郵便ホスト前
米川三味線店に限り

其月三洋零尺八箇類一
安價販賣仕候

焦心單志多年爲斯遊樂
傲推愚智恍然固有得哉
驚雅應酬離芒洋辭者
臨京本町五丁目
相斯觀
相放授
館主 土御門藏大陰殿

戶蚊帳株式會社韓國代理店
反物服
唐川商店
京城明治町一丁目

團進
電話二六一
案製綿韓國
許特
手一
特約店
向七日間

着賣出し
り五歩引
は特に
一割引
町一丁目(憲兵隊前)

桑原商
町五丁目(舊座入口角)
電話 四八三

桑原出張

荷着

號
附屬品付
正 種
價七十圓
大紳士用實用に適す
城本町二丁目
織居商店自轉車
電話四百八十六

100

5 2 7

543-

11

十番 半部

歯科治療
ドクトル **中村安子**
本町六丁目
(敷そば橋町)電話一五八三